



オフセット印刷事業部 印刷製本部 CTP課 係長 松村 寿史氏



MCU搭載のMAGNUS Q800プレートセッターを2台導入

KODAK SONORAプロセスフリープレートで、生産工程を無処理化し、生産性の向上、コスト削減、環境対応、さらには品質向上にも成功。

CHALLENGE

印刷会社が生産性を高めながら、コスト削減と環境への配慮を同時に実現するためには、どうすればよいでしょうか？

SOLUTION

KODAK SONORA XTRAプロセスフリープレートによる製版工程の完全無処理化。

KODAK MAGNUS Q800プレートセッターによる自動化と効率化の推進。

RESULTS

- 老朽化した3台のCTPを2台に集約し、完全自動出力を実現。
- 環境対応と同時に、処理薬品関連で年間250万円を削減。
- 現像工程を無くし、色の一貫性、品質の安定化を実現。
- 製版部門の人員は5人から4人になり、残業時間も40%削減。
- 同等の仕事量でも、コスト削減と省力化、省人化を実現。
- 人件費などを含むトータルでのコストメリットは年間1,000万円以上。

3台の老朽化したCTPをKODAK MAGNUS Q800プレートセッター2台に集約。同時にKODAK SONORAプロセスフリープレートを採用し、自動化、省力化、省人化、生産コストの削減、さらには環境への配慮を実現。

内製率80%を誇る総合印刷会社

東京都北区に本社を構え、埼玉県川越市に総建坪2,400坪の川越工場を擁する奥村印刷株式会社は、創業77年の歴史と伝統を誇る総合印刷会社である。クリエイティブ事業（企画・編集・デザイン）、デジタル事業（WEB・システム制作）、SP関連事業（POP・イベント・キャンペーン・DM）、印刷事業（カタログ・ポスター・書籍・雑誌・手帳・名刺、防災対策用「折り紙食器 Beak」の開発・販売など）を展開し、社内一貫体制による内製率は80%を誇る。基幹工場である川越工場のオフセット印刷事業部ではオフ輪4台、枚葉機5台を擁し、2台のKODAK MAGNUS Q800プレートセッターが、月平均約7,000版のプレートを供給している。このMAGNUS Q800は、2021年5月に完全無処理CTPプレートKODAK SONORAシリーズと同時に導入したものである。複数メーカーの製品を慎重に比較検討した結果、製版部門をすべてKODAK製品に揃えた理由について、オフセット印





オフセット印刷事業部 事業部長 取締役 執行役員 田沢 正己氏(左)
オフセット印刷事業部 印刷製本部 部長 工場長 横浜 義徳氏(右)

刷事業部 事業部長で取締役 執行役員の田沢正己氏は「技術、サポート、アフターサービスなどコダックの総合力、特に品質に直結するカラーマネジメントサポートを高く評価した」と語る。

MAGNUS×SONORAの垂直立ち上げを同時に達成

同社がCTPの更新と無処理版の導入を考えはじめたのは2019年10月のこと。当時を振り返って田沢取締役は次のように話している。「CTPの老朽化が一番の理由です。15年以上使い続けて、保守費用もかさねてきました。更新時期が近くなり、環境対応やコスト削減など導入効果を総合的に見て、無処理化を含めて検討をはじめました」KODAK SONORA CX2によるテスト印刷をすぐにスタートし、わずか2カ月後にはAM・FMスクリーンの両方で目処が立つなど、本格運用に向けたプロジェクトは順調に進んでいった。田沢取締役も「翌年夏には一気に導入できる」と目論んでいた。しかし、コロナ禍でプロジェクトは一時中断し、導入は2021年5月までずれ込んでしまった。ただその間に多くの経験を積むことができ「連休明けの垂直立ち上げに成功した」と田沢取締役は誇らしげに語ってくれた。

複数メーカーの印刷機で安定したカラーマネジメントを実現

複数メーカーの様々な印刷機を運用する同社にとって、色の安定性と一貫性は、無処理版を採用する上で最も重視した要素のひとつだった。このため、コダックは徹底したプロフェッショナルサービスで、同社のカラーマネジメントをフルサポートした。事前のテスト印刷でも有処理版と無処理版で色の違いはほとんどなく、印刷機が変わっても問題はなかった。最終テスト段階では、顧客の立ち合いがある難しいFM印刷の仕事で見事な成果をあげた。シャープさ、見当精度、インキの盛り具合など、印刷品質を高く評価されたのである。導入時から続くコダックのサポートは、現在、同社のカラーマネジメントの要となっている。実際、色のトラブルで版を焼き直すことはほとんどないそうだ。

処理薬品関連だけで年間250万円のコストを削減

オフセット印刷事業部 印刷製本部 部長で工場長の横浜義徳氏は、SONORAによる無処理化の効果を次のように話している。「無処理化によって、処理薬品関連だけで年間約250万円の経費が削減できました。このなかには購入費用の他、廃液回収費用や自現の保守費用なども含まれています。電気代や水道代も減りました。また2週間に一度の清掃作業がなくなり、オペレータの負担は大きく軽減できました。特別管理産業廃棄物がなくなったので、安全で安心な労働環境の確保にもつながっています」

[KODAK.COM/GO/SONORA](https://www.kodak.com/go/sonora)

©KODAK, 2023. KODAK, MAGNUS, SONORA, および KODAK ロゴはKodak社の商標です。仕様は予告なく変更になる場合があります。

技術、サポート、アフターサービスなどコダックの総合力、特に品質に直結するカラーマネジメントサポートを高く評価”

さらに印刷部門でも高い評価を得ていると横浜工場長は続けている。「刷り出しの早さ、刷りやすさ、耐刷性、品質は有処理版と全く遜色ありません。むしろ立ち上がりは以前より安定しています。現像工程がなく、網点の変動もないので、再版時の再現性にも優れています」

新しいKODAK SONORA XTRAの性能を高く評価

2022年秋には「視認性」「耐刷性」「耐傷性」を高めた新しいKODAK SONORA XTRAに切り替えて、製版・印刷現場での評価は一段と高まった。特に有処理版と比べて劣っていた「視認性」は従来比2.5倍となり、版の付け間違いがなくなり、検版時の使いやすさも一段と向上した。キズ付きによるトラブルも、さらに減って限りなくゼロに近づいたという。「耐刷性」についても、版交換を義務づけている最大25万刷まで常に余裕を持って刷了できるそうだ。

人件費などを含めると年間1,000万円以上のコストを削減

同社は老朽化した3台のCTPを2台のMAGNUSに集約し、同時にSONORAによる無処理化を図ることで、環境対応とコスト削減を見事に達成した。ただ、それだけではない。田沢取締役は「人件費の削減効果も大きかった」と指摘する。製版部門のスタッフは5人から4人になり、残業時間も40%削減できた。人件費などを含めたトータルでのコストメリットは年間1,000万円を超えるという。高齢化や退職による人員減をMAGNUSとSONORAがしっかりとカバーし、社員の適正配置も実現できた。またSONORAによる「付加価値の高い10μFM高精密印刷」など新商品の提供も可能になった。質の高い社員教育で一人一人の知識レベルを向上し、さらなる付加価値の提供へと挑戦を続ける同社のビジネスを、コダックの高い技術力が確実にサポートしてゆく。



ユニークな防災対策用「折り紙食器Beak」を開発(左)
A横全判をはじめ4台のオフセット輪転機を保有(右)

奥村印刷株式会社

代表取締役社長：奥村 文泰

本社：〒114-0005 東京都北区栄町1-1 TEL.03-5390-6211

川越工場：〒350-0833 埼玉県川越市芳野台2-8-66 TEL.049-225-3741

<https://www.okum.net/>



コダック ジャパン <https://www.kodak.com/ja>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270 札幌：050-3819-1250

2023-12